

第 10 回 デフリンピック運営委員会
(議事概要)

1 開催日時

2025 年3月6日(木) 9時 30 分から 11 時 30 分まで

2 開催場所

戸山サンライズ 全国障害者総合福祉センター 2階大会議室

3 構成員等

○委員(構成員)

委員長 久松 三二(一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)

副委員長 薬師寺 道代(医師)

石原 保志(国立大学法人 筑波技術大学 学長)

太田 陽介(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事)

畑中 淳子(弁護士)

早瀬 久美(デフリンピック選手)

古屋 留美(東京都生活文化スポーツ局長)

延興 桂(公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長) ※欠席

○事務局

倉野直紀(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会事務局長)

4 要旨

【事務局 説明】

- ・昨年 10 月の第8回運営委員会では、皆様にデフリンピック・フェスティバルを全9カ所で開催することをご承認いただき、また第9回運営委員会では書面開催にて、大会規模(計画額)の収入および開閉会式について報告をさせて頂いた。
- ・本日は、2025 年度事業計画(案)および 2025 年度予算(案)について諮りたい。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・それではこれより、次第に沿って議事に入る。

○議題(1)2025 年度事業計画(案)について

(久松委員長)

- ・「2025 年度事業計画(案)について」、倉野事務局長より説明をさせていただく。

(倉野事務局長)

- ・2025 年度の基本方針として、都のガイドライン等を踏まえたガバナンス・コンプライアンス確保を継続すると共に、東京都スポーツ文化事業団等と連携し、大会本番に向けた準備に取り組む。
- ・また、大会後には、大会の記録や記憶を円滑に継承するため、公式報告書作成等を行う。
- ・具体的には、ガバナンス・コンプライアンス確保のため、都のガイドライン等を踏まえたガバナンスやコンプライアンスの確保の継続、役職員等向けコンプライアンス研修、利益相反管理の遵守状況の確認の継続、契約調達管理会議への契約・調達案件付議、大会専用の会計運用、内部監査・監

- 事・外部監査人が密に連携した三様監査体制を通した監査機能の強化、透明性の確保に取り組む。
- ・大会準備業務は、ICSＤ や関係団体等との調整、連携、全国への気運醸成イベントの推進、未来へつながるプログラムの展開、国際手話通訳者の養成、大会情報の発信(国外・国内)に取り組むこととしている。

○議題(2)2025 年度予算(案)について

(久松委員長)

- ・2025 年度予算(案)について、引き続き倉野事務局長より説明をさせていただく。

(倉野事務局長)

- ・運営委員会は主に ICSＤ 等の連絡調整、気運醸成イベントの推進を担当しており、2025 年度の経費として、ICSＤ や関係団体等との調整、連携、全国の気運醸成イベントの推進、大会情報の発信にかかる費用を計上している。
- ・経費の内訳としては、主に会議費として 10 万円、諸会議や全国気運醸成の推進における旅費交通費として 340 万円、通信費5万円、消耗品費 10 万円、広報費5万円、雑役務費 90 万円とし、合計 460 万円となっている。
- ・来年度の全国気運醸成は、全日本ろうあ連盟本体が主に取り組むことになったため、運営委員会はそれをサポートしていく。
- ・財源は、連盟の他会計からの繰入金により運営委員会の経常費用を充当する。

【質疑応答】

(久松委員長)

- ・出席者の方々から質疑応答を行い、採決に入りたいと思う。
- ・まずは、議題(1)2025 年度事業計画(案)について皆様いかがか。

(古屋委員)

- ・ガバナンス・コンプライアンスの確保についていろいろと取り組んでいただき、感謝申し上げます。引き続きこういった面に気を配りながら、大会準備を着実に進めていただきたい。
- ・都としても、盛り上げに本腰を入れて頑張りたい。

(石原委員)

- ・事業計画の順番だが、当該年度にコンプライアンスが最初にくるというのは、計画としてどうかと思う。

(畑中委員)

- ・東京五輪のときにも一番国民の関心があったのが、契約調達管理会議への契約・調達案件付議、大会専用の会計運用のところだったと思う。この内容を、どういうものなのか簡単に説明をしていただきたい。

(倉野事務局長)

- ・契約調達管理会議は、東京都と連盟、デフリンピック運営委員会及び東京都スポーツ文化事業団の四者合同で立ち上げているものである。大会の契約に係る行為があった時に、事前に付議し確認・同意をいただいた上で契約を行い、契約後も報告・確認をする、そのような流れで運営している会である。メンバーとして外部有識者の皆様にも集まっていただき、契約に関する確認・審査をしていただくことになっている。
- ・大会専用会計について、透明性の確保が重要であり、大会関連の収支についてすべて1つの口座

で管理するという形で進めている。その口座の収支状況については連盟の内部監査を受ける、また外部監査員による監査や連盟の監事による監査も受けるというやり方で、三様監査体制をもって透明性を図るというやり方で進めていこうと考えている。

(太田委員)

- ・ガバナンスに関する体制を強化するということだが、デフリンピックの選手選抜の公式発表に対してクレームがあることもあり、これに対してしっかりと答えられる体制というのにも必要になってくると思う。
- ・電話での対応の仕方や、説明の口調等、そういったものも考えていなければならない。

(薬師寺委員)

- ・石原委員がおっしゃったように、ガバナンス・コンプライアンスが最初に立って、気運醸成や ICSD との関係性という我々の本来の役割というのが第一に打ち出されていないのは寂しい。気運醸成というところからは少しかけ離れているような気もあり、残念に思った。
- ・大会準備業務をしっかりと行い、選手が安全・安心していただけるような大会を開催していくところが、まず基本にあるのではないか。そのためにガバナンス・コンプライアンスの確保も必要だということで、順番を入れ替えていただくような形でご検討いただければと思う。

(久松委員長)

- ・今回デフリンピックという国際的な大きなスポーツ大会を日本で開催するにあたり、石原委員や薬師寺委員のご意見のとおり、事業計画として運営の中でどうやって盛り上げていくか、重要な課題として審議を行ってきた。
- ・運営委員会として、組織として対応するための重要な課題として、コンプライアンス・ガバナンスということを常に意識しなければならないと考えており、まず一番にこれを据えた。これをしっかり築ける組織であることを示し、大会成功に向けて繋げていきたいという思いがある。その蓄積によって次の大会にも結び付けていくという責任もあり、そういった意味で一番にガバナンス・コンプライアンスの確立ということを姿勢として出した。ご理解いただければと思う。

(久松委員長)

- ・では、議題(1)2025 年度事業計画(案)について採決に入る。賛成の方は挙手をお願いしたい。
- ・委員の皆様は賛成を頂いたので、2025 年度事業計画(案)について承認を頂いた。

(久松委員長)

- ・次に、議題(2)2025 年度予算(案)について、いかがか。
(質問・意見なし)
- ・議題(2)2025 年度予算(案)について採決に入る。賛成の方は挙手をお願いしたい。
- ・全会一致で賛成を頂いたので、2025 年度予算(案)について承認を頂いた。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・次に、報告に入る。

○報告(1)デフリンピック・フェスティバル開催について

(久松委員長)

- ・まず、デフリンピック・フェスティバル開催について、倉野事務局長より報告させて頂く。

(倉野事務局長)

- ・第8回運営委員会において、開催箇所を全国8か所(9回)から1か所増やし、全9カ所(10回)で開催することを承認いただいた。
- ・その後、石川県から助成金 10 万円の予算内で追加の開催要望があり、予算の範囲内であり事業趣旨と合致するため、これを認めた。その結果、合計で9カ所 11 回の開催となった。
- ・今年度は、大規模集客施設でのイベント実施や自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で実施したことから、延べ約 26,000 名にデフリンピックの周知ができたことは効果的であった。
- ・第8回運営委員会以降、開催した4カ所について報告する。
- ・京都市では 12 月 14 日と 15 日に、かたおかアリーナ京都で開催されたバスケットボールの試合の場で、ミニ手話体験コーナー、デフリンピック出場選手による質疑応答コーナー、啓発チラシ配布や啓発動画視聴等により、約 8,200 名にデフリンピックについて知っていただく機会となった。
- ・石川県では 12 月 1 日にかほく市、2 月 11 日(火・祝)に白山市で開催し、いずれもプロ卓球チームの試合や大規模集客施設で行われたパラスポーツフォーラムの場で実施したことにより、2か所合わせて約 130 名にデフリンピックについて周知啓発を行うことができた。
- ・名古屋市では、2 月 22 日に愛知県主催のあいちパラスポ PARK で行い、約 250 名にデフリンピックについて周知啓発を行うことができた。
- ・今後、主催団体から報告書、決算書、領収書等の提出を受け、審査を行うとともに、実施状況を踏まえ、来年度の気運醸成の推進に活かしていく。

○報告(2)第4回コンプライアンス委員会について

(久松委員長)

- ・次に、第4回コンプライアンス委員会について、倉野事務局長より報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・コンプライアンス委員会は、運営委員会のコンプライアンスの推進に係る重要な方針の策定や啓発、連盟理事、監事および運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員のコンプライアンス違反への対応について、運営委員会の諮問に対し審議し、意見を具申するものである。
- ・12 月 10 日に第4回コンプライアンス委員会を開催し、2024 年度コンプライアンス推進計画の上半期達成状況について審議を行った。
- ・審議の結果、上半期の遂行状況について問題ないこと、下半期について計画変更の必要性がないことを確認・承認された。
- ・次回開催は3月を予定している。今後も、デフリンピック運営業務に係る役職員の規範意識醸成を図るとともに、役職員がコンプライアンスに反することなく業務を遂行できるよう取り組む。

○報告(3)第4回及び第5回利益相反管理委員会について

(久松委員長)

- ・次に、第4回及び第5回利益相反管理委員会について、倉野事務局長より報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・利益相反管理委員会は、運営委員会の事業活動における取引の公正性や信頼性を確保するため、連盟理事、監事および運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員の利益相反関係を審査するものである。

- ・9月 30 日に第4回利益相反管理委員会を開催し、役職員等からの利益相反自己申告書の審査及び利益相反管理チェックシートの確認について、審議を行った。
- ・利益相反自己申告書の審査の確認については、役職員等(申告内容に変更があったもの)から提出された自己申告書を審査し、利益相反事項がないことを確認・承認された。
- ・利益相反管理チェックシートの確認については、役職員等から提出された 2024 年度第2四半期分利益相反管理チェックシートを審査し、全件利益相反やチェック箇所の内容に問題がないことを確認・承認された。
- ・また、1月7日に第5回利益相反管理委員会を開催し、役職員等から提出された 2024 年度第3四半期分利益相反管理チェックシートを審査し、全件利益相反やチェック箇所の内容に問題がないことを確認・承認された。
- ・利益相反管理委員会は今後も適時開催し、運営委員会の事業活動における取引の公正性や信頼性を確保するよう取り組んでいく。

○報告(4) 2024 年度利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施について

(久松委員長)

- ・次に、2024 年度利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施について、倉野事務局長より報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・運営委員会の役職員に対し、利益相反管理研修及びコンプライアンス研修を書面で実施した。各役職員からの実施完了報告の提出を受け、実施確認を行った。
- ・利益相反管理研修は7月に利益相反管理体制と役職員が遵守すべきルールの理解を図ることを目的として、「利益相反とは」、「利益相反となる事例」、「利益相反に関する自己申告書及び利益相反管理チェックシート提出の必要性」について研修を行った。
- ・コンプライアンス研修は、コンプライアンスを推進し、役職員の規範意識の向上を図ることを目的として、4月と10月に実施した。
- ・4月はスポーツ文化事業団との合同研修で行い、テーマは「ガバナンスの基本的枠組み」と「ろう者の文化の理解促進」、10月には「国際スポーツ大会におけるコンプライアンス」、「情報公開について」、「個人情報漏洩、滅失、き損防止」である。
- ・今後も定期的に両研修を実施し、デフリンピック運営業務に係る役職員の規範意識醸成を図るとともに、役職員がコンプライアンスに反することなく業務を遂行できているか随時確認する。

○報告(5) ボランティアについて

(久松委員長)

- ・次に、ボランティアについて、清水部長より報告させていただく。

(清水部長)

- ・先月2月 14 日に、募集した 3,000 人に対して6倍強の約 19,000 人が応募したということを公表させていただいた。

○報告(6)令和6年度デフリンピックの気運醸成の都の主な取組について

(久松委員長)

- ・次に、令和6年度デフリンピックの気運醸成に向けた取組について、清水部長より報告させていただく。

(清水部長)

- ・東京都ではデフリンピックの都民の認知度について調査をしており、今回直近の調査ではその前の14.8%から39.0%ということで大きく上昇した結果となった。
- ・この間東京都として取り組んできた内容として、切れ目のない大会気運の醸成ということで、昨年6月に大会マスコットを決定し、自治体等のキャラクターとともに応援隊というような形で結成し、全国からの盛り上げに繋がるような取り組みを行っている。また、7月に「学ぼう！デフリンピック」という冊子を作って都内全小学校に配布するなど、さまざまな取り組みを行ってきた。
- ・多様な媒体を活用した大会PRということでは、SNSの活用や電車内の動画放映等、多くの方々の目にとまるような媒体を活用したPRも行ってきた。
- ・最後に、都外での大会PRということで、都内だけではなく、九都県市首脳会議、鳥取、大阪、豊田市等における大会PRなど、いろんな機会を通じて都としても大会PRに努めてきた。

○報告(7)「ビジョン 2025 アクションブック バージョンアップ」について

(久松委員長)

- ・次に、「ビジョン 2025 アクションブック バージョンアップ」について、清水部長より報告させていただく。

(清水部長)

- ・今年はデフリンピックと併せて都内では世界陸上も開催されるが、こうした2つの大きなスポーツ大会を通じて東京都が目指すべき姿といたしまして「ビジョン 2025」というものを作成している。これをさらに詳細、あるいは最新の状況にバージョンアップしたものが、今日ご説明する資料の内容である。
- ・5の大きな柱として、一番上の「みんながつながる」から一番下「みんなで創る」というものを5つ大きなテーマとして掲げている。例えば「みんながつながる」では、公共施設へのユニバーサルコミュニケーション機器の導入等による大会後の情報保障の充実、そういったレガシーに繋がるような取り組みをしっかりと進めていきたいと考えている。「こどもたちが夢をみる」では、子どもたちへの競技観戦の機会を作って、将来子どもたちの健やかな成長に繋げていきたい。「みんなで創る」は、先ほどご説明したボランティアへの参画など、気運醸成なども含めて多くの方々に大会に関わっていただき、大会後もボランティア文化の根付けあるいはスポーツへの継続的な関わり、こういったものを創出していきたいと考えている。

○報告(8)競技会場・競技日程について

(久松委員長)

- ・競技会場・競技日程について、北島部長より報告させていただく。

(北島部長)

- ・競技会場だが、これまでの会場に加えて、陸上それからオリエンテーリングについて新しく会場を追加させていただいた。陸上のマラソンの会場が正式に決まっていなかったというところと、ハンマー投げの会場について新たに競技会場を設定した。
- ・マラソンに関しては東京高速道路(KK線)及び首都高速道路高速八重洲線の一部ということで、このKK線が今年の4月5日に供用停止となるということで、その道路を使い片道2.5km・往復5kmの周回コースでマラソンを実施する。2月14日に発表された際に大きくメディアの方にも取り上げていただいたが、

今回のデフリンピックの大会の象徴的な会場としてみなさんに記憶されるのではないかなと思う。

- ・合わせて、各国選手団からの仮登録等があったので、競技日程に関して練習日等も含めて再修正した。資料には暫定版と書いてあるが、選手たちの最終エントリーは8月15日から10月15日までとなり、セッションスケジュールとの関係で微妙に動くかもしれない。正式な競技日程の決定というのは10月15日の選手の登録を待って正式なものになるため、暫定版という書き方になっている。

○報告(9)協賛企業の状況について

(久松委員長)

- ・協賛企業の状況について、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- ・多くの企業の方々に大会を支えてそして一緒に盛り上げていただくということで、協賛企業の募集を行っており、これまでトータルサポートメンバーということで大会全体のご支援をいただく企業様が25社、そして特定の競技にサポートいただくゲームズサポートメンバーとして8社契約を締結させていただいている。
- ・金銭を頂くというだけでなく、メーカーさんであれば物を頂いたり、メディア系の企業であれば広告枠を提供していただいたり、いろんな形でこの大会を支えていただく予定。
- ・掲載企業以外にも、平行して多くの企業様との契約の調整をさせていただいており、このリストが更に増やせるように取り組んでいければと考えている。

○報告(10)キャッシュレス募金について

(久松委員長)

- ・キャッシュレス募金について、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- ・協賛と並行して、これまでも寄付ということで募集をしてきた。これまでは口座への振込みのみだったが、より手軽にご寄付いただけるようにということで、今回Vポイント又はd払い[®]で寄付ができるような仕組みを導入した。
- ・1ポイントまたは1円から気軽に寄付できるという形になっているので、PRしてより多くの寄付を集められるよう取り組んでいきたいと考えている。

○報告(11)さくらキャンペーンについて

(久松委員長)

- ・さくらキャンペーンについて、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- ・今回の大会のメインカラーであるさくら色にちなんで、3月の桜の時期に合わせてデフリンピックのPRキャンペーンをやっていきたいと考えている。
- ・3月17日から3月30日までの期間で、協賛企業の方々、または自治体、競技団体の皆さまにご協力いただきながらいろんな取り組みをしていければと考えている。協賛企業としては、例えば駅にポスターを貼っていただいたり、新聞の広告でPRをしていただいたり、テレビCMを出していただくといった形で協力いただく予定。また、ライトアップということで、都庁舎や東京体育館等会場施設もピンク色にライトアップする予定である。
- ・競技団体やアスリートの方々にもSNS等で情報を発信していただくということで、今調整しているところで

ある。

- ・初日3月 17 日に、協賛企業のソフトバンクさんにご協力いただき、ソフトバンクの店舗でプレス向けのイベントも行う予定。アスリートの方に起こしいただいたり協賛企業の方々の取り組みを紹介したり、そのような形でデフリンピックというものを発信していければと思う。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・以上、議案・報告についてすべて終了した。それではここで、出席者の方々から意見をいただければと思う。まずは、太田委員からいかがか。

(太田委員)

- ・マラソンコースにつきまして、想像以上で非常にびっくりした。場所の選定理由等その辺り詳細を伺えるとうありがたい。
- ・マラソンについては、応援の沿道の中で走るというイメージだが、高速道路の上ということで誰も観客がいないという状況になるかなと思っている。アスリートとして、本当に応援を得ないで走れるのかどうか、今後の課題として観客のことは残ると思う。応援の方法について工夫が必要。
- ・みなさんに分かるような、例えばテレビ中継だとか、技術的には大変になると思うが、そのあたりの工夫ができないか。
- ・コースの設定の仕方についても工夫が必要になる。非常に高い位置になるので、転落等についての心配もあるかと思う。その辺り、具体的にどのような策があるか教えていただけると有難い。

(北島部長)

- ・コースについては検討を重ね、課題をクリアできたのが今回のコースという考え。
- ・高速道路上に関しては安全性の問題があるので、すべての場所に観客を入れるということはまず無理だと思っている。ただ、広い場所もあるので、一部安全性の確保ができる所においては、観客を入れるということも今後検討していく。コースの設定をした上でどこに空きがあるかという考え方となるので、まずは公式のコースを決定した上で、そこの検討を進めていくという流れになると思う。

(早瀬委員)

- ・アスリートファーストという考え方が重要になる。アスリートの気持ちにいろいろご配慮いただき検討していただいているということで、例えばイベントや企画等様々な発案をしていただき、アスリートとしても非常に励ましになり有難く感じている。
- ・気運醸成についても皆様方の仕事になると思うが、アスリートの立場から言うと、練習に専念し技術を磨きながらも、やはり自分が広告塔という形でみなさんに発信できるということで、イベントに参加しつつ、またSNSを活用した発信ということも、アスリートとして重要な役割をもつものではないかと思っている。
- ・参加をして終わりではなく、今回はアスリートも関わりながら一緒にデフリンピックを作っていくという意識で、我々もこれから大会に向けて練習をしながら、一緒に盛り上げて気運醸成に努めてまいりたいと思う。改めて、アスリートファーストという考え方、皆さんに対してもお礼を申し上げたい。

(薬師寺委員)

- ・一般のイベントでもデフリンピックを取り上げたい、デフリンピックのブースを持ちたいというご希望をいただくことがあるが、それをどこに要望したらよいのか窓口が分からない、広報するにもどんなグッズがあるのか分からないといったことがある。貸し出し可能なグッズ、無料配布できるもの等整理をして広報してい

ただと、もっと多くの企業や団体も何かイベントがあるごとに活用していただけるのではないかなと思うので、ぜひそこはお願いしたい。

- ・さくらキャンペーンについてインスタで拝見したが、文字の量が多い。どんなことがあるのかなと期待感を広めるためにも、ぜひ手話での発信を考えてみてはどうか。
- ・大会グッズについて、どんなグッズが販売となるのかと皆様から聞かれる。すごく興味があるところなんだと感じたので、なるべく早くそういうところもご検討いただきながら広報していただくと、資金調達の1つのツールにもなると思う。
- ・デフサッカーの試合が4月2日国立競技場で予定されている。サッカーは福島で開催されるため、なかなか東京の皆様にご覧いただけないイベントになってきたのかなと残念に思っていたが、4月2日初めて国立競技場でデフサッカーの試合があるということで、盛り上がりを見せている。こういった広報にも、東京都にもご協力いただきながら、私共も気運醸成の中の1つとして盛り上げていけたらいいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

(清水部長)

- ・東京都としても、ポスター・バッジ含めて、気運醸成のPRの物を作っているところである。コミュニケーションを取る機会が多い都内の自治体や当事者団体を通じて貸出やブース出展を行ってきたところもあるが、個別の団体ということになると、連盟とも協力して、どういう風に一緒に盛り上げをやっていけるか検討していく必要があると思う。また、グッズ販売についても、大会に向けての気運醸成としては非常に重要な観点かなと思うので、その辺りも連盟と協議していきたい。

(板倉部長)

- ・手話での発信というご意見について、以前からHP等でもそういった手話の動画を入れられないかというご意見をいただいている。今、どういったところにそういうものを付けられるか、全てという訳にもいかないので、そういった視点も含めて調整している。しっかり取り組んでいきたい。

(石原委員)

- ・筑波技術大学では前も申し上げたとおり、デフリンピックの開催期間授業を休校にして学生・教職員が参加できるような体制を整備している。学生はほぼ全員がなんらかの形で参加させていただく。教職員は学生の支援ということだけでなく、通訳者としてあるいはボランティアとして参加するという方々が結構多く、大学をあげてデフリンピックに参画していく。
- ・卒業生の中で、今までのデフリンピックに選手として・アスリートとして参加したことがある人たちが何人かいる。その人達を含めて学生・卒業生の中でデフリンピックにアスリートとして参加するような方々も何人かいるので、ぜひ活躍してほしいと思う。
- ・デフリンピックを契機に手話というものを社会に広げていく、とても良い機会だと思う。

(畑中委員)

- ・デフリンピック自体を知らないという方がまだまだたくさんいらして、周知をどういう風にすればいいのかなということを考えていたが、今回さくらをテーマにして誰でも参加しやすい形でSNSで広めてくださいというアイデアはすごく良いと思う。あまり難しく構えてデフリンピックの意義とはというところからスタートするよりも、さくらとか誰もがきれいで好きで気軽に写真に撮れるようなもので広めていくというのは、すごく良いアイデアだなと思った。
- ・ポイントの寄付について、現金から電子マネーでの寄付に切り替えたら寄付が増えたという話を聞いたことがある。最近の人はほとんどお財布を使わずに電子マネーで生活していると思うので、電子マネーですと遠隔にいても寄付も可能なので、これもとても素晴らしいアイデアだなと思った。

- ・今後ちょっとした工夫で多くの人が関われるような、少しずつみんなが力を出し合って参加できるような形式のアイデアは、どんどん出していただけたら嬉しい。

(古屋委員)

- ・以前出席した運営委員会の時に、さくら色がテーマカラーになるということで、さくらの時期にイベントとかやったらどうでしょうかということをお話したが、今回さくらキャンペーンということで事業団の方でやっていただくということなので、非常に嬉しく思っている。
- ・東京都の方からも気運醸成の取り組みについて清水部長の方から説明させていただいたが、2020 大会のレガシーを活かしてありとあらゆることをやってきたと思う。例えばメダルデザインについても8万人の子供たちが全国から投票してくれましたし、非常に幅広く都内だけではなく都外も含めていろんなところでPRしてきた。
- ・私自身文化プログラムについては直接関わっており、先月、都内の美術館・博物館で、デフリンピックの期間中にいろいろな環境にある方が企画を鑑賞できるようなプロジェクトをやろうということでお願いし、取り組んでいくということで、スポーツを超えて社会のいろいろな中にレガシーを落とし込めていけたらいいなと思っており、これからも頑張っていきたい。
- ・一番大切なことは、やはりデフスポーツの魅力を多くの方に知っていただくことと、期間中試合を見に来ていただけて応援していただくことだと思っている。なので、サインエール、これを多くの方に知っていただくように、これから連盟の方でもスポーツ庁からの予算でいろいろなイベントを全国でやられると思うが、ぜひ当日試合を見に来ていただけるようにサインエールをみなさんに知っていただく機会にさせていただきたいと思う。都も都外でのいろんなイベントのお知らせをしているので、うまくすみ分けをすることと、都で使ったコンテンツも活用していただきながら全国に広げていただければと思う。

(久松委員長)

- ・他にどなたかご意見はないか。

(太田委員)

- ・情報提供となるが、11 月 15 日に福島のサッカー場の真上で航空ショーをやるという話を聞いている。このような話があり、非常に驚いている。航空自衛隊のHPでも、11 月 15 日発進予定ということになっている。
- ・東京都でも、例えばマラソンコースの上空に何か上手く仕掛けができないかということも検討していただけるのかどうか、確認したい。

(清水部長)

- ・11 月 15 日航空ショーという話、ブルーインパルス飛行というのが、昨日航空自衛隊の方から公表された来年度の年間スケジュールの中で、デフリンピックについても飛行するということで公表されている。
- ・福島県の上空ということで、福島県庁の方とも相談して是非という話もいただいたと聞いている。実際、防衛省の方でどういった調整をされたかというのは分からないが、無事デフリンピックについては希望が通ったということで、昨日の公表に至ったという風に聞いている。

(久松委員長)

- ・延興委員はご欠席であるが、コメントをお預かりしているのでご紹介申し上げます。

(延興委員からのご意見)

- ・連盟においても、事業団においても、精力的に着々と準備が進み、感謝申し上げます。
- ・最近、弊協会の事業でも、デフリンピックに関するものは人が集まる。デフリンピックの話が聞きたい、と

いう声も、今年になってから目に見えて増えてきた。関心の高まりを感じており、ますます盛り上げていきたい。

- ・各議案については異議なし。
- ・デフリンピック・フェスティバルについて、一般の参加の多いイベントへの出展など、広がりがあってよい。
- ・ボランティアについて、全員を当選にはできないが、応募してくれた人を応援団に育てるのが重要。例えば、応援グッズを配って、友達を誘ってきてもらうとか、会場で応援リーダーをやってもらおうとか。ボランティア志望者に活躍してもらうには、役割の付与やささやかなグッズが大変喜ばれる。ぜひ工夫して、彼らを大会に繋ぎ止めてほしい。
- ・少し残念だったことであるが、先日の東京マラソンで、デフリンピックの代表選考があり、スタートランプも初めて導入されたが、私も知らなかったし、ほとんど話題になっていない。同じ大会で、初めて全盲の日本人ランナーが6大マラソン大会を全て完走したが、本件は支援者が都の記者クラブと交渉して記者会見を設定してもらい、朝日や読売などに大きく取り上げられた。
- ・これから大会本番まで、私自身もアンテナを高くして、デフリンピックの盛り上げにつながるネタを発信していきたい。

(薬師寺委員)

- ・延興委員からもご報告いただいたように、今回の東京マラソンでマラソンの代表選手が決まったということ、日本デフ陸上競技協会の方からもどんどん発信がなされている。それこそSNSを活用してということになるので、そういうところも皆さんキャッチして是非ツイートなどしていただければ有難い。私もとても大きなニュースだと思ったが、延興委員がおっしゃるように全国的に広報されない、これは大変残念だなと思っていたので、お願いしたい。
- ・今、国際手話が東京都内で学べる機会が増えている。いろんなところで講座が開かれており、申し込んでもなかなか当たらない、順番待ちという状況。その講師の話では、学びに来ている人の中で医療従事者が一番多い。医療の中の手話は特殊であり、その特殊な医療についての国際手話を学ぶ機会がなく、講師の方からも教える機会が持てないだろうかというご要望をいただいている。学べる機会を増やせよう、ぜひお考えいただきたいと思う。

(久松委員長)

- ・本日皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、引き続き大会の成功に向けた準備を進めていく。
- ・本日はご多忙の中ご参集いただき、感謝申し上げます。